2005年4月17日

セカンドハンド通信 NO.40

NPO法人セカンドハンド 本部事務局 〒760-0055 香川県高松市観光通1-1-18
TEL&FAX 087-861-9928 発行責任者:新田恭子
E-mail:jimukyoku2hand@yahoo.co.jp http://www.eskimo.com/~2nd-hand/

国際交流基金地域交流賞を受賞しました！

2月2日（水）国際交流基金フォーラム（東京都港区赤坂）で授賞式が行われ、賞状と副賞２００万円が授与されました。

この賞は・・・・・・地域における国際相互理解の増進に貢献し、地域に根ざした国際交流のモデルとして広く参考になる先導的な国際交流活動を行っている団体もしくは個人を顕彰するものです。今回、全国から125件の推薦があり、受賞3団体のうちの1つとして選考されました。

授賞式での新田代表挨拶文抜粋

＊全文はホームページに掲載＊

セカンドハンドをはじめたきっかけのひとつは、イギリスのチャリティーショップとの出会いでした。来店する人がさり気なく商品を提供し、学生やお年寄りがお店番をし、その売上が国際協力の資金になっている…。リサイクル活動が国際協力につながり、働く人がやりがいを感じられる場となっている、そのシステムの完成度の高さ、合理性に目からウロコが落ちました。

もうひとつのきっかけは、カンボジアとの出会いです。

11年前、ユネスコ主催のワークキャンプに参加してカンボジアを訪れ、同い年の青年からポルポト時代に親兄弟、友人を亡くした話を聞きました。教育はなく、生活すべてを管理され、強制労働をさせられていたそうです。自分に置き換え、考えるうちに、同じ地球に住む人間として、そして、恵まれたこの日本で生まれ育った人間として、何かしたい、何かしなければという思いになり、やがてチャリティーショップという手法と結びつきました。

カンボジアでは現在も学校は不足し、危険な状態の校舎が使われています。貧しく、職がないために人身売買の被害に遭う女性がいます。孤児の問題、医療施設の不足・・・次から次へと目の前に出て来る問題があり、それを一つずつ、自分たちのできる形で取組み、11年という月日が経過しました。

支部のメンバー、女優の大場久美子さん、ヴァイオリニストのアテフ・ハリムさんはじめ、多くの協力者がお祝いに駆けつけてくれました。

この賞の素晴らしいところは、何と言っても副賞です。評価していただいても、自由に使えるお金を受け取ることはほとんどありません。セカンドハンドの収益は、「支援に充てるもの」という考えで活動をしてきたからこそ、支援の実績を残すことができたし、そのような活動だから、多くの賛同をいただいていると確信しております。その分、不自由もいっぱいです。

これまでなかったエアコン、雨漏り、古くて重いシャッター。今回の副賞は、これらの設置・修理のために使わせていただきます。

もうひとつの副賞の使い道は・・・

今年は、セカンドハンド学生部「小指会」のメンバーの有志をカンボジアに連れて行くことにしています。小指会は昨年、街頭募金やバザー、各学校の協力で、カンボジアに中学校建設を成し遂げました。その活動に参加した生徒たちに、中学校を見せてあげたい、現地の生徒と交流し、ホームステイ体験を通して、カンボジアへの理解だけでなく、日本の生活を見直す機会にしてほしいと思っています。今回の副賞を活用し、中学・高校生たちを自己負担5万円で連れて参ります。この小指会のツアーは、参加した生徒たちに大きな力と可能性を与えることになると思います。

国際協力といえば、つい現地で活動することに焦点が当てられがちですが、国内での活動が基礎であり、一般市民に理解を広め、また深めることこそ重要だと痛感しています。今後さらに「地域の方々誰もが活動に参画しやすいシステムづくり」に心掛けるとともに、学生部「小指会」を通した人材育成にも尽力する所存でございます。

私たちには世界を変える力はなくても、世界を変える人を育てるチャンスがあります。

ひとりから、やがて百人、千人と・・・

そう信じて活動して参ります。

今号は「小指会カンボジア体験記」をはじめ、カンボジアからのニュースをお届けします！

「セカンドハンド」は、皆様からいただいた品物を販売し、収益金すべてを援助にあてる国際協力団体です。主にカンボジアに小学校を建設など、教育支援、自立支援をおこなっています。チャリティーショップや支部は無償で働くボランティアスタッフが支えています。店舗や倉庫は無料または格安でお借りするなど、皆様のあらゆる協力の上で成り立っています。「一人一人の力は小さくても、集まれば大きな力となる」セカンドハンドのモットーです。あなたも世界の誰かのために、ボランティアしてみませんか？

商品提供やご寄付など、支援して下さった皆様へのお礼とご報告は、このニュースレターにかえさせていただきます。

医療施設が完成しました!

皆さんから多くの協力を得ての支援であることを伝えました。

２００５年3月２３日、プノンペンの国際空港から市内に向かって１０分ほど走ったところにあるトゥックトラヘルスセンターの産科棟のオープニングセレモニーが行われました。来賓として、カンボジア厚生省大臣、プノンペン副市長、市保健局長などが列席し、併せて０３年セカンドハンドの支援で建設された２棟のヘルスルームの開所式も行われました。

このヘルスセンターは産婦人科に加え、都市部に住む貧困者に対して結核や性的伝染病などの治療・予防教育や予防接種を行っています。保健局の狙いは病気による貧困の悪循環から住民を救い出すことです。しかし、今年2月にセカンドハンドの支援により新産科棟が完成するまでは、出産前の診察や治療、出産が衛生状況の望ましくない古い建物で行われていました。また、入院用ベッドが２台しかなかったため、出産後の母親は乳幼児と廊下で寝るという状況でした。

新しい病室を視察し、優しく声をかける大臣

式典終了後、厚生省大臣と新産科棟の視察をしました。分娩室、診察室、スタッフの宿直室が整備されており、病室は清潔でトイレつきの２人部屋が6室ありました。母親と新生児8組が安心した様子で寝ているのを見た時、このプロジェクトに関わってきた担当者としては、何よりも嬉しかったです。

式の最後に香川県内の医師（平田氏）から贈られた医療器具を手渡しました。

地域の方々や患者さん、センターのスタッフに大いに感謝され、今までのセカンドハンドの皆様の努力が報われたと感じました。このプロジェクトを通して、住民の皆様が貧困の悪循環から早く脱出できることを願っています。

報告:平野キャサリン（医療プロジェクト担当）

◆新しい施設と旧施設の比較

		旧施設	新施設
産婦人科	出産前	入院不可	入院可
	出産者	60人／月	90人／月
	出産後	1日入院可	3日入院可
一般患者	入院不可	2室可	2室可

◆新施設の利用状況

	1月（新産科棟オープン前）	2月（オープン後）
外来患者	1,200人	1,423人
出産前患者	386人	486人
出　産	57人	76人

サクリエム小学校 新校舎建設着工!

訪問してきました!

7月までには、この後方には校舎が完成することでしょう。

支援１２校舎目となるコンポントム州のサクリエム小学校は長い間、戦闘の影響で閉・開校を繰り返し、１９９５年に戦闘が収まり、やっと安定して授業を行えるようになった学校です。いつ崩れるか分からない危険な校舎の中で、生徒たちはギュウギュウ詰めになりながらも食い入るように先生の話を聞いていました。

現在使われている校舎。
屋根が落ちかけています。

「上を向いて歩こう」の演奏＆歌に生徒たちから手拍子!

校庭に埋まっていた不発弾でその危険性を知らずに遊んでいて片目と片腕を失った生徒がいました。「校庭がそんな危険な場所なんて…」ショックを受けたツアー参加者たち。それでも生徒たちは毎日学校に通い「学校が好き」と答える。今回の建設を機に、新校舎部分の地雷と不発弾の撤去作業が１２月に行われました。残りも近いうちに撤去されます。学校が安全であることはもちろん、教育（知ること）の大切さを感じさせられた訪問でした。

乾期のうちに工事を進めたいため3月に着工しましたが、建設費４７０万円にはまだ約１００万円足りていません。

安心して通える環境を整備するためにも、新校舎建設資金のご協力を引き続きお願いします。

✉ ニュースレターを読むといつも元気がでて、「頑張るぞ」って気持ちになります。
セカンドハンドの活動に参加してくれる人がもっともっと増えるといいなと思います。（岡山県　横川様）

小指会・カンボジア体験記

日程:3月16日〜3月26日　参加人数:13人
参加費:中学・高校生5万円、大学生7万円、一般11万円（学生の参加費助成金はP1の賞金が活用されています。）

中学・高校生を中心に活動している「小指会」が建設支援したSen Sok中学校の視察と、生徒たちとの交流を目的に、カンボジアを訪問しました。昨年、建設資金1万ドルを集めるために、バザーや街頭募金だけでなく、多くの団体、個人の協力を得ました。

「困っているらしい」と聞いていたことを自分の目で確かめ、「支援先」だった人たちが「友だち」になり 、本当に必要な支援をしていると実感することで、自信や誇りを感じることができた11日間。文化祭で取組んでくれた学校やクラブ、募金活動に協力して下さった方、「がんばって」と声をかけてくれた人…、皆さんとこの報告書を通してカンボジアで感じたこと、体験を共有したいと思います。

センソク中学校開校式

開校式の日、日本とカンボジアの国旗が交互に立てられていました。

壇上の小指会メンバーは緊張気味。

地域住民ら約1,000人が集まって盛大に行われた開校式。フン・セン首相から贈られた国家復興功労メダルがプノンペン市長の手により小指会に授与されました。

＊2005年3月現在の肩書きです。

カンボジアに行って　宮脇　綾子（高校3年生）

アスファルトの道路をはずれ、土の道を車が走って行く。やがてクリーム色とうす赤色の校舎が近付いてくる。ついに皆で支援した中学校にやって来た。「すごい･･･」目を釘付けにしたまま車から降り立つ。少し離れた所には皆の住む家々がぎっしり並んでいる。あとはだだっ広い地面が見える･･･。

小指会がこの学校の支援をすることにしたのは、昨年の4月29日だった。”私でよければお役に立ちましょう ”そんな気持ちで始めた。私はメンバーの1人として、セカンドハンドを拠点とした活動に取り組んだ。小さな活動や大きな活動、お金にするまでの過程でやるべき事の多さに驚いた。「こんな作業も必要なのね」と言ったり「もっと人手が欲しい」とぼやいたりしながら、募金、バザー、イベントなどをやり遂げた。達成までの長い道程にどれほど多くの人が関わったことだろう。その道のずっと先で待っていた中学校が、今は私の目の前にあるのだ。

中学校の壁に小指会のロゴ。これを見て、本当に自分たちが建てたんだと感動しました。

私は、カンボジアに来たことで「私達の支援は確実に、人々から必要とされているんだ」とひとひしと感じた。始めた頃は「必要らしいから支援する」という間接的な認識でしかなかった。それが現地に入り、学校に通う人、その地域に住む人と会い、交流するうちに、「私達の活動は確実に役立っている。だから次の支援もやるんだ」という思いに変わってきた。小指会の次の支援は奨学金制度。ツアーで出会った人々のことを忘れずにいれば、前回よりもっとタフで生き生きとしてやりがいのある支援になるだろう。日本にいた頃は想像するしかなかった現地の様子や支援の必要性。カンボジアに来たら、もう全身で感じざるを得なかった。最終日の開校式で交互に立てられたカンボジアの国旗と日本の国旗をみながら、「やってよかったなあ･･･」としみじみ思った。

小指会で得たものの中に、「自信･･のようなもの」がある。「世界の人が幸せになったらいいよね」と口で言うだけだった自分が、小指会で具体的な活動をしたことで得たもの。「理想を現実にするためにはまず行動。私にもそれをする力がある」という確信である。そしてツアーで各地を廻ったことで、ホームステイをしたことで、国境に関係なく、地球に住む人々をぐっと身近に感じるようになった。ここから新たに行動を始めたい。

小指会の新プロジェクト！ その1「奨学金制度」

小指会のメンバーがホームステイしたのは、現地NGOから推薦を受けた勤勉で優秀なのに、貧しいために学校を継続できない可能性がある生徒たちの家でした。家族も勉強を続けさせてあげたいが、「将来の可能性」よりも「今生きるためのお金」が必要な中、学校に行くための費用が捻出できないという問題を抱えています。1人につき年間100ドル（約11,000円）の奨学金で制服2着、文具等が買えるため、親の経済的負担を減らすことができ、学校を継続できると聞き、10名の支援を決定しました。

カンボジア語でプレゼンテーション

カンボジア語での発表に生徒たちはびっくり!聞き入っていました。

高松に住むカンボジア人の協力でカタカナ書きになった原稿を片手に、セカンドハンドの活動と日本の学校について説明しました。支援先の方に、どのようにお金が集められ支援しているのかを理解してもらえる機会でした。学校の説明では、生徒は給食制度やクラブ活動に、先生は時間割表に興味津々でした。

訪問先の学校、孤児院、国会議長さん宅など計6カ所で実施

メンバー全員でテープカット。少しずつハサミを入れるのがカンボジア式。「少しね!」と言われ、1ミリしかハサミを入れなかったメンバーに「Little, but little more」と市長から突っ込みが…。（カットしているのが宮脇さん）

当たり前が当たり前じゃない事　生駒　有佳里（高校1年生）

ステイ先の友達とお別れをする生駒さん。涙、涙、、、

電気があって、綺麗な道路があって、母さん父さんがいて、ゴミを捨てる場所があって、情報交換ができて、綺麗な水があって....私は、毎日を当たり前のように過ごしてきた。カンボジアに行くまで、それがどんなに幸せな事か気づきもしなかった。私は日本では考えれない事を、見たり、聞いたり、体験した。また、忘れないだろう事を感じてきた。私がこのツアーに参加した理由は、自分の目でカンボジアを、また自分達の支援の成果を見たかったからだ。

私は子ども達の笑顔・明るさが忘れられない。

コブ・トロック小学校。大歓迎を受け、運動会をした。障害物競争では砂埃と戦いながら、走り回ったが、子ども達がゴールした時の笑顔は、疲れも砂埃も、吹き飛ばしてくれた。

サクリエム小学校に行った時、子ども達は屋根が落ちそうな校舎で一生懸命勉強していた。日本では勉強が当たり前で、私も勉強が嫌になる事がある。私たちは思う『なんでしなくちゃいけないんだ。』…違った。勉強できるって、すごく喜ばしい事なんだって思った。

私は、人の優しさが忘れられない。

ホームステイ先での体験を語ったら、1日中語れるくらい、思い出深いものだった。やはりみんなの優しさが印象的だ。ホームステイ先の家は、いつ学校に行けなくなってもおかしくない状況なのに、私に沢山のご飯をくれて、マーケットで朝ご飯、デザートをごちそうしてくれた。私なんかのために、いいの？という気持ちになった。一晩しか泊まっていない私に、別れの時にはフルーツを沢山くれて「あなたがいない夜はさみしかった。あなたは私の子どもよ」なんて言われると、本当にウルルン滞在記みたいな感じで、涙が止まらなかった。寂しさもあるけれど、すごく不思議な気持ちで、いっぱい感謝をしていた。

ステイ先での食事風景。質素でしたが、彼らにとってはご馳走です。

私はここに全てを書きつくせられないのが残念なくらい、沢山の忘れない体験をした。中でも忘れられない言葉が、レンさんが言った「あなた達から世界が平和になり、今からまた、世界が変わる」と言った言葉だ。小指会が建てた中学校を使っている生徒を見た時、私達に本当に感謝していると言われた時、これまでの成果はこれなんだと思うと、校内で１番をとるくらい嬉しくて、また信じられなかった。いつも世界平和なんて、手を合わせて願うだけで、行動になんか移せなかった。まして、カンボジアだけでなく世界が平和になる力が、私達にある!と思うと、自分達がやっている事に自信が持て、日本でのボランティアが本当に大切だと思った。手を合わせて世界平和を祈るなら、その手をボランティアという行動に手を伸ばし、自分が少しでも関わりを持ってみたらどうだろうかと思った。

１日は長く感じたけど１０日は短く感じた。日々を過ごす中で、語学力は本当に大切だと思った。伝えたい気持ちが言葉に出来ないもどかしさは辛かった。そういう面でも、私に勉強の意欲を引き出させた。同じ地球上で、同じ時が流れていても、環境や過ごし方が全く違う。当たり前だった事が当たり前じゃない生活。私には時間が、物が、お金が全てそろっている。だからこそ、私なりの無駄のない時間の過ごし方をしたいし、しなくちゃいけないと思った。カンボジアの人達のように、心の強さを持ち続けたいと思う。

私はカンボジアを忘れない。また、出会えた人達に感謝したい。

ホームステイを終えてカンボジアのNGO担当者からの声

本当に充実した、有意義な経験でした。是非知っておいていただきたいのは、あなたがたが彼らに希望という贈り物を下さったこと、彼らの心を豊かにして下さったことです。

「カンボジアの中学生」　木田　真梨子（高校1年生）

クメール語で日本の学校について発表する木田さん。最初は通じるのか、とても不安でした。

今回のツアーに参加して、私はカンボジアに実際に行かなければ知ることのなかった面を知ることが出来、今回のツアーに参加できて本当に良かったと思っている。

私達は中学校の校舎が完成した際、日本で中学校の様子と成績が良くても家の金銭的な都合で学校に通えない子がいるという話を聞いた。そして私達は“ 奨学金 ”というアイディアを持ってスタディーツアーに望んだ。

私達がホームステイしたのは、成績が良いのに家の都合で学校に通えなくなるかもしれないという奨学生候補の家庭だ。生徒達が住んでいるのは学校近くの村で、数年前の火事で焼け出されてきた人たちの仮住まい状態の村らしい。あまり良い状態ではないことは聞いていたが、植物の皮か何かを編んで作った壁の家を見た時は、本当にこんな家に人が住んで風雨に耐えているのかと少しショックを受けた。

アンコールワットで。

私がホームステイした家では、姉は中学校に行けているが、年の近い妹は中学校に行けていない。ノートを見せてもらうと、とても綺麗にぎっしりと書いていてすごく勉強していることが見て取れた。ところが自分はどうだろう。カンボジアよりもずっと整った環境で質の高い教育を受けているというのに、その有り難味も分からず不真面目に勉強していた。ディスカッションの時に、ある生徒は真夜中の2時にロウソクをつけてまで勉強をしていたと聞いた。こんなに勉強を頑張っている、本当に勉強をしたいと望んでいる子が金銭の都合で勉強が続けられないというのは、不公平だし、とてももったいないと思う。ホームステイから帰ってきた日の夜、ディスカッションで奨学金をやろうというみんなの意思が固まった。

私達はカンボジアを見てきた。そこで見たことを、もっと多くの人たちが知って、私達のこれからの活動に理解と参加をしてもらえるよう、頑張りたい。

ともに生きる　矢田　尚子（大学1年生）

ほっぺにチュッ!ステイ先で別れの朝に。

花園小学校に新田さんが講演に来られた、その日から始まったセカンドハンドでの私のボランティア歴は、今年ではや８年目になる。そんな私にとって、カンボジア行きは、大きな夢だった。

今回のツアーの誘いが来たとき、私は断るつもりでいた。カンボジアには行きたいが、それは自分で旅費を出せるようになってからと決めていたからだ。だが、今回のツアーは小指会が中心だと聞き、心が揺れた。小指会結成時のメンバーとしては、聞き逃せない話だ。更に、先日の受賞の賞金が、皆さんのご好意で旅費の助成金として使われるという。バイトの収入で充分に出せるくらいの旅費が提示され、私は二つ返事でツアーへの参加を決めた。

今回何よりも印象的だったのは中学校開校式とホームステイだ。小指会が建てた中学校はとても立派で、壁に「SECOND HAND KOYUBIKAI」のマークを見るまでは本当にその校舎なのか信じられなかったくらいだ。

校舎内を見学し、校庭で生徒たちと遊んでから、いよいよホームステイ先へ。ホストファミリーや近所の人々はとても暖かく私を迎え入れてくれた。大した会話はしていない。折り紙やバルーンアートをきっかけにして、ほとんどがボディーランゲージ。それでも確かに繋がるものはあって、あっと言う間に時間が過ぎていった。別れの時はもう涙、涙。たった一日という短い時間の中で、生涯の宝物をもらったと思う。

今まで平面的に見ていた薄っぺらいカンボジアが、リアル（現実）として目の前にあるこの感覚。カンボジアの人たちの笑顔、強く生きている様子を見てきて、彼らを「助けてあげる」時代はもう終わったのだと実感させられた。これからの国際社会、そして私の人生は、互いに励ましあい、彼らと「ともに生きていく」ことをモットーにしたい。

ステイ先では矢田さんの特技バルーンアートで子ども達に大人気でした。

小指会の新プロジェクト！ その2「高校建設」

奨学金を受ける生徒のうち3名は中学3年生。カンボジアの新学期は10月からなので、9月には卒業です。しかし、この地域には高校がありません。Sen Sok中学校の開校式でプノンペン市長、教育長から「高校も建設支援」を懇願されていた小指会メンバー。現地では言葉がわからないふりをして笑っていましたが、帰国後4/3（日）の定例会で「チャンスがあるなら挑戦したい」と高校の建設支援を行うことを決定。建設費は300万円。新たな挑戦が始まりました!
セカンドハンドも総会での承認を得た上で、小指会の運動に協力する予定です。

思い出は宝物　小笠原　雄次郎（高校1年生）

プレゼントしてもらった帽子とクロマ。似合ってる？

カンボジアの小学校を訪問して一番に思ったのがみんなとてもいい顔で笑う事です。また、勉強する姿はとても一生懸命で自分は環境が整っていてもこんな風に勉強していないなと反省しました。

カンボジアの学生、ピセイ（中学3年、女の子）とラムセイ（中学1年の男の子）の家にホームステイしました。まず家に行って驚いたのは電気がないことでした。日本では考えられないことですが、カンボジアでは普通です。カンボジアでの生活は日本とは全く違うものでした。掃除をするにしても掃除機があるわけでなく全てほうきで掃いて、洗濯物も手で洗います。水道がないので、家にある水瓶から一回一回水をくみます。僕は掃除、洗濯、皿洗いを手伝わせてもらいましたが、すごく大変な仕事でした。食事はスープとスイカで、とてもおいしかったです。お風呂はトイレの横で水浴びをしました。家族に日本からのお土産を渡しましたが、一番喜んでくれたのは写真でした。家族は本当に優しくて、自分も家族の一員になれました。帰る前にピセイがクロマと帽子と家族写真をくれました。一生の宝物にします。

今回カンボジアに行って、よりボランティアをする意味が分かりました。カンボジアをよくしたいと思っているのは僕達だけじゃなくて、カンボジアで出会った人たちみんながそう思っています。自分のボランティアに対する気持ちが大きく変わりました。なんとなくではなくはっきりとボランティアがしたいと今は思っています。「あなた達がやっていることはとても素晴らしいこと。このような活動が世界平和につながる」現地ＮＧＯのレンさんの言葉を胸に置いてこれからの活動をしていきたいです。

これから小指会で奨学金制度など新しいことを始めようとしています。そのためにはよりたくさんの人の理解が必要だと思います。理解を得るために今回見てきたことを人々に伝えることが僕達の義務です。その義務が果たせるようこれから頑張っていきたいです。

スラムのような貧困地域に日本の学生がホームステイすると聞いて「なぜ、こんなところに?」と現地の住民たちは驚き、ステイ先に選ばれた生徒は戸惑いながらも喜びと誇りを感じたと言います。「こういう交流や助け合いが世界平和につながる活動。あなた方には確実に世界を変える力がある!素晴らしい」とNGOマリノールのレンさんは感動の涙を流して絶賛してくれました。

感激するレンさん（右手前）

カンボジアを生きる人たち　平野　礼以奈（中学3年生）

昼食の準備のお手伝いをする平野さん。

カンボジアという国を訪れ、様々な体験をした。そこから得られたものは数知れないが、私にとって一番大きかったのは、現地の人達に実際に会えた事だった。カンボジアで暮らす人達との交流は、自分がセカンドハンドを通して支援しているのはどんな人達なのか、どんな風に生きている人達なのかを確かに感じさせてくれた。とりわけ行く先々で出会った子ども達の存在は、ひとつひとつが本当に特別で、どれも忘れたくない。

ホームランド孤児院で私が強く感じたのは、カンボジアの子も日本の子も変わらないということだった。同じようなことで笑い、同じようなことで喜ぶ。しかし、目の前で笑っている5歳ほどの男の子の話を聞いて、私は大きなショックを受けた。親に売られ保護されたが、養父から虐待を受けてナイフで刺されたのだという。その傷口を見せられ、このホームランドにいる子は皆そういった過去をもっているという事実に気付いて愕然とした。私達日本の子どもと何も変わらないのに、身を置かねばならない環境、状況はあまりにも違う。

ホームステイの家族と出会った時も同じことを感じた。私がステイしたのは私と同じ中学３年１４歳の女の子の家だった。彼女は、いつ学校をやめて働かなければならなくなるのか分からない状況にいる。以前、父親の手術のために借りたお金にどんどん利子がついて、今では返済不可能なほどに借金がふくらんでいるのである。

同じ中学生で、同じ子どもで、この違いは何なのだろう。私はカンボジアで何度もこの疑問を持ち、そのつど問題のあまりの大きさに圧倒されるしかなかった。このツアーで、カンボジアがまだまだたくさんの問題を抱えていることを知った。同時に、これまでしてきた支援には本当に大きな意味があったことや、これからやろうとしている支援は現地の人々に大いに必要とされているということを知ることでもあった。一度に大きな問題を解決することはできない。けれども、少しずつでもカンボジアの人達の助けになれるのなら、自分にできることを精一杯やっていきたいと思う。とにかく今は、これから小指会で取り組むことに決めた奨学金制度が、カンボジアで頑張って中学校に通っている子達の助けとなることを願っている。

ホテルでのディスカッション。ここで奨学金支援を決定しました。

コブトロック小学校で運動会

プログラムは風船送り、伝絵ゲーム、障害物競走。障害物競争は麻袋、ネットくぐり、仮装、風船割り、玉入れでゴール。ちょんまげのカツラやうさぎの耳をつけた生徒の姿に住民は大爆笑!風船を必死で割る姿に、また爆笑!…学校が笑いの渦に巻き込まれた楽しい交流の時間でした。

娯楽のない村で、運動会は一大イベントでした

国際協力　讃野　有宇子（高校3年生）

カンボジアスタイルでサロンを巻いて入浴する讃野さん。入浴と言っても水浴びですが。

セカンドハンドに関わって約1年、カンボジアを支援しているとは意識せず、バザーやお店番、募金活動をしてきました。しかし、現地に行くことで気付かされた事、嬉しかった事、驚いた事がたくさんありました。

まず、女性たちが働く職業訓練センター。いい話があると誘われて行ってみれば売春宿で働かせられたり、遠い町に出稼ぎに行っても、自分の生活で一杯のため家族を養えなかったのが、今では自分の町に働く場所があり、本当に素晴しいと思いました。そして私達が日本でカンボジア商品を買うことで彼女たちを支援することができる事を知らされた時、私は改めて気付かされたのです。私たちがセカンドハンドで売られているカンボジア商品を１つ買う事で、現地で働いている女性の収入となりその家族を養う事ができる、間接的ではあるけれど簡単な行為で確実に国際協力につながり1人の人の生活を支えることができるのです。女性達だけでなく、子ども達を支えることができる事も知りました。

私は中学校建設のための募金活動をしていて、道行く人にお金を頂いたことに感動していましたが、中学校の事はその次に考えていました。学校が建っているのを実際に見た時、こんな大きな建物に私達が協力したんだ、すごい。という驚きの気持ちで一杯でした。開校式は、盛大な式典で道ばたには国旗がありました。テープカットの時、これからこの学校で子ども達が勉強して遊ぶことができる場所になるんだと思うと、本当に素晴しいと思えたし、出発点に関わっている自分ってすごいと誇りに思いました。

私が、ツアー中に出会った人々は皆、一人一人が頑張っていて国全体を発展させようと一生懸命でした。支援だけを頼りにするのではなく、自分達でできることを見つけて実行している人々を見て尊敬の気持ちで一杯でした。じゃあ、私には何ができるのだろうか。これからの目標は、バザーや募金活動に少しでも多く参加することです。そして、カンボジア商品を買うことです。そして一番大事な事は、このスタディーツアーに参加して見てきたことを他の人達に伝えることだと思いました。

今までは、何も感じずにやってきた活動が、帰国した後にこんなにも心が変わるとは正直驚いています。本当にいい経験ができて良かったです。

職業訓練センター。3期生は30人以上の訓練生が通っています。

報告会＆展示会を開催！

報告会

日時:5/7（土）・8（日）11:00～、14:00～（計4回）
場所:e-とぴあ・かがわ 5F
（サンポート高松4・5F　ヨンデンプラザ斜め前のシースルーエレベーターにて4Fが入口）

展示会

日時:5/5（祝）～8（日）10:00～22:00
（最終日のみ17:00まで）
場所:エースワンサンポート高松店イベント広場

一緒に活動しませんか?・・・中学生から大学生までのメンバー募集しています!

各店・支部便り

セカンドハンドの輪を広げよう！
支部募集中！

北海道支部

国際協力チャリティーバザー＆パネル展を開催します！

現在バザーを手伝ってくださるボランティアを募集中です。
今回、北海道では初挑戦の大型のバザーのため、事前の準備、会場のセッティング、商品出し、当日のお店番、最終日の片付けなど多くの人手が必要です。
札幌にお知り合いのいる方、ぜひお声掛けをお願いします。
ご協力お願いします。

日　時:**5/20（金）～5/22（日）** 10:00～19:00
場　所:**ライラックホール**（札幌駅南口広場地下街アピア内）
連絡先:（大波）090-2695-9390
E-mail:satomie@seagreen.ocn.ne.jp

川口支部

ボランティア見本市に、出店します。

日時:**6/5（日）** 10:00～16:00
場所:**川口リリアパーク**（川口西公園）
内容:チャリティーバザー、カンボジア製品販売、活動内容展示
※ボランティア参加できる方は、早船までご一報ください。

女優の大場久美子さんが開催！

セカンドハンドの強力なサポーター、大場さん。今回はすべて自前の品物を出品してチャリティーバザーを開催。大場さんのご親戚のご近所さんや婦人会の方もボランティアで参戦。たった3時間で10万円近くも売り上げてしまったとか。すごい・・・。
大場さん、皆さん、ありがとうございます!!

足立区の空き店舗が会場。
ここでの開催は今回で3回目。

GOOD GOODS

カンボジア支援につながるフェアトレード商品

SECOND HAND fair trade

シルクバッグ

どんなコーディネイトにも合わせやすいシンプルなデザイン。シルクの光沢が上品で華やかな印象です。

(1090) **¥3,800**
サイズ:20cm（高さ）、9cm×34cm（底）
色:ゴールド系、黄色系、ピンク、オレンジ
柄:無地
素材:クメールシルク
＊色についてはお問合せください。

・・・郵送での購入方法・・・
商品名、4ケタの商品番号、ご希望の色などを明記し、郵便振替口座に商品代金と送料（500円）をお振り込みください。振込口座はp.8参照。

福岡店

売上の一部がセカンドハンドに寄付されます

「古布展」開催！

昨年大好評で、次回の開催が待たれた「古布展」第2回目を開催！古い着物で作った洋服や帯、蚊帳などで作ったバックなどの小物を展示、販売します。染料として柿渋を使ったものもあります。もちろん、セカンドハンドのリサイクル商品やカンボジア商品も奥の店舗スペースで販売しています。皆さんのご来店をお待ちしています！
「古布展」
日時:**4/22～28**　10:30～16:30
場所:セカンドハンド福岡店ギャラリーにて

SPECIAL THANKS〈敬称略〉

【店舗・倉庫】丸亀TMO推進協議会（丸亀店）、西川（福岡店）、弘陽商会（朝日新町）、金丸水産・中村（瀬戸内町）、冨井（満濃町）【出店協力】エースワンサンポート高松店、麟【ニュースレター発送協力】三木中学校、その他多くの方々【寄付】香川/（株）アサツーディー・ケイ、Ablaze、今雪真善、入江治子、ジャン＆範子、笠井佐代子、Cafe de Tasha、喜多和也、KING'S・YARD、グルッペルミネ、清水政和、末澤博、須田恵美子、専光寺、善通寺ロータリークラブ・亀山政明、多田宏、田所清美、（株）田中工務店・田中浩一、続木昌三、友安祥子、蓮井文代、高松東高校マンガ研究部、平島淳貴、平野ファミリー、溝渕広史、三谷範至、三原保、村山久美子、山下真理子、山田美智子、吉田敏子、大阪/黒田貞子、幸田弘子、深田佳代子、岡山/落合高校、倉敷自然農園・柏野尊徳、藤川幸恵、西江幸子、西郡育子、神奈川/アイスタッフ（株）、長山喜代子、野澤滋為、京都/森下恵子、高知/久島茂子、東京/ 大島幸子、三略会、白崎祥子、高橋久美子、竹内日出男・宣子、マスマテリアル（株）紫嵜安寧、三井住友火災保険（株）、スマイルハートクラブ、富山/ 荻浦いく弥、兵庫/グループ握手・栗田るみ子、野村妙、則政喜美代、福岡/草ヶ江幼稚園園児一同、古賀邦雄、後藤キクエ、後藤富子、近藤美佐子、高木美緒、田中庸子、山田政巳、山口/YUCCA、カンボジア/ボラミー、ジャカルタ/小松邦康【その他】雲辺寺、雲辺寺ロープウエイ、エビス紙料（株）海田周治、大山牧場、香川マツダ、コスモ商事（株）、佐川急便（株）、セカンドフット、（株）損害保険ジャパン四国本部、ダイキン空調四国（株）、天勝（丸亀）、豊南会香川井下病院・平田陽一、ホテルジャパン、錦郵便局【印刷協力】アイニチ（株）

✉ 誰かが何かやらないと何も変わらないんですよね。行動することって大事ですね。（高松市　匿名希望の方）

information

ボランティア募集！

◎お店番スタッフ
◎運搬スタッフ
↑特に不足しています！
荷物の運搬、車の運転など
◎倉庫作業スタッフ
◎仕分け作業　など

平成１７年度総会のご案内

昨年度の活動報告と今年度の活動計画を決議する総会を開催します。
興味のある方はどなたでも参加できます

日　時：5/28（土）13:00～
場　所：高松市女性センター　第7集会室
参加費：無料
総会資料を御希望の方は資料代300円が必要です（要申込み）

☆終了後に懇親会を予定しています
会費1,000円（軽食、飲料代）、要予約

いずれも申込締切り：5/22（日）
問い合わせ・申込先：セカンドハンド本部
087-861-9928

カンボジア報告会開催！

学生部小指会のツアー報告を行います。
日時：5/7（土）・8（日）
場所：e-とぴあ・かがわ
（サンポート高松）

詳しくは、p.6を参照。

品物提供の受付け

食器、日用品など
季節のないものは常時OK
新品または新品に近いもの
をお願いします。

春物　5/15まで
夏物　6/1～7/20（予定）

＊スカートは現在受付け中止中

集めてます！

・未投函の官製ハガキ
・使用済み切手
詳細はお問合せください。

昨年度、使用済み切手は16,800円、ハガキは郵便書簡937通分になりました！ありがとうございます！

ニュースレター発送作業

次回は 7/24（日）です。
参加可能な方は、
本部までご連絡ください。

寄付・募金いつでも受付けています！

郵便振替口座
01620-6-60029
NPO法人セカンドハンド

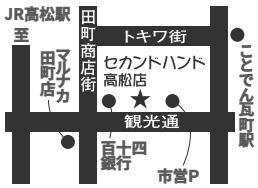
セカンドハンド通信をネットでＧＥＴ！

HPからダウンロード可能な方は
ご一報ください。
発行のお知らせを
メール配信いたします。

収支報告書は毎月セカンドハンド店頭で掲示しています。

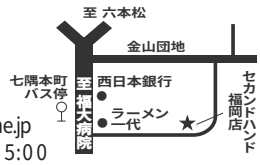
高松店

■高松店〈1F〉
■セカンドハンド本部〈3F〉
〒760-0055
高松市観光通1-1-18
TEL：087-861-9928
営業時間：
10：00～19：00



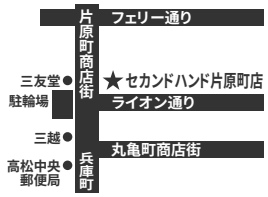
福岡店

■セカンドハンド福岡店
〒814-0131
福岡市城南区松山2-7-15
TEL/FAX：092-871-5760
(E-mail) r-kimura@highway.ne.jp
営業時間：月・木　11:00～15:00



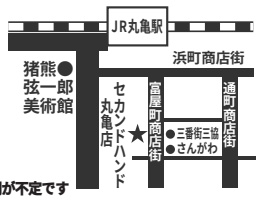
片原町店

■セカンドハンド片原町店
〒760-0040
高松市片原町9-1
TEL：087-822-3552
営業時間：
10：00～19：00



丸亀店

■セカンドハンド丸亀店
〒763-0021
丸亀市富屋町30-1
TEL：0877-25-2876
営業時間：
火・水 11:00～13:00
木　　11:00～16:00
ボランティアスタッフ不足のため営業時間が不定です



支部

■セカンドハンド川口支部
責任者　早舩　　森田　090-4169-9940
(E-mail) tsubasa@i-staff.co.jp
ホームページ http://www.i-staff.co.jp/2nd-hand/
■セカンドハンド大阪支部
徳　　090-6241-3768
(E-mail) tokuyo@d1.dion.ne.jp
■セカンドハンド北海道支部
大波　Tel:090-2695-9390　Fax:011-785-2311
(E-mail) satomie@seagreen.ocn.ne.jp

☆このニュースレターは3ヶ月に一度5500部発行しています。封筒作り、発送作業等をボランティアで行い、約4300部を全国の支援者へ無料で発送しています。購読ご希望の方は、ハガキ、FAX メールなどでお申し込み下さい。